

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
2023. 2. 8
No.57 文責 荒木秀

どう話し合うか②

前回の続きから、本の内容をもう少し詳しくお伝えします。中原は、「話し合い」は2つのフェイズから成立すると言います。「①対話する」フェイズと「②決断（議論）する」フェイズです。

①対話する	お互いの「私（I）」の意見・考えを出し合いながら、それらのズレや違いを表出させ、認識し合うようなコミュニケーション。最終的には「共通理解」を作り上げる。
②決断（議論）する	どんなに対話を重ねても、最終的に「決めること（決断）」ができなければ、物事を前に進めることはできない。決断するに当たって「議論する」ことが必要。 議論とは、AとBの2つの意見がある場合、それぞれの意見のメリットやデメリットを明らかにし、「私たち（We）」にとって最善の選択は何かを皆で探り合うこと。

私の中では、「①が発散、②が収束」といったイメージです。みなさんもこんな流れで話し合せているのではありませんか？大事なのは、子ども達が理解し、活用できるようになることです。

①の時間がないと、個人（I）の思いがくみ取られず、1つの案に決まったとしても、心からの同意が得られていないので、活動が一部の人間で行われることになってしまいます。結果、そもそも話し合い自体に価値が見出せなくなってしまいます。「どうせ話し合ったって…。」

②のフェイズは、収束に向かうため主語を「私たち（We）」に変えて議論しなければなりません。そのときに役に立つのが、「シンキングツール」です。それぞれの案のメリット、デメリットなどを客観的に可視化していくことで、最善の選択をしていきます。この選択も、「多数決」以外に「全員で合意する」「多段階での多数決」「スコアで決める」「評価で決める」の方法が紹介されています。

とは言っても、②のフェイズに入っても、「私（I）」視点で意見を出してしまう子（子どもだけじゃないか）っていますよね。そうならないためにも、話し合いは、この2つのフェイズで進めていくということを最初にきちんと教える（確認する）ことも大切なのかなと思います。